

大津企業景況調査報告書

(第96回)

令和4年1月～3月期 実績

令和4年4月～6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和4年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	8 社	6 6 . 7 %
卸 売 業	1 3 社	8 社	6 1 . 5 %
小 売 業	2 5 社	1 9 社	7 6 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 0 社	6 4 . 5 %
建 設 業	1 9 社	7 社	3 6 . 8 %
合 計	1 0 0 社	6 2 社	6 2 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和4年1月～3月とし、調査時点は令和4年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は小幅悪化するも全体ではまだら模様

令和4年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲22 から今四半期は▲24 へと小幅悪化した。業種別では、前期に+5 に転じた小売業が今期は▲16 へと再びマイナスに転じ、建設業も▲27 からマイナス30ポイントの▲57 へと大幅悪化した。一方で、前期▲38 と大幅悪化した製造業は今期▲25 へ、サービス業も▲30 から▲15 へ、卸売業も▲40 から▲38 とマイナス幅が縮小しており、業種によりまだら模様となっている。

先行きの業況判断DIは、全体では▲24 から▲11 へ改善するとみている。特に今期▲57 と大幅な落ち込みを見せた建設業では、来期はプラス71ポイントと大幅な改善を見越しているほか、製造業も▲25 から+13 へと大幅に改善し、小売業も▲16 から+5 へと、いずれもプラスに転じるとみている。一方で、サービス業では▲15 から▲35 へとさらにマイナス幅が拡大するとみており、先の見通しは業種によって2極化している状況となっている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では悪化するも、建設業、小売業以外は改善の兆し

「前年同期比でみた業況判断DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲22 が今期は▲24 となり、建設業、小売業では大幅悪化した。他の業種ではおしなべて改善した。

□ 売上DI（前年同期比）は、建設業で大幅悪化し、その他業種でも改善の動きは見えず

「前年同期比でみた売上DI(全体）」（「増加」－「減少」）は、前四半期の▲22 から▲24 へと小幅悪化した。業種別では、建設業が▲20 から▲57 へと大幅悪化し、卸売業、小売業も2～5ポイント悪化した。一方で、サービス業では▲39 が▲30 へとマイナス幅が縮小した。

□ 採算DI（前年同期比）は、全体で悪化し、特に製造業、建設業、サービス業では顕著

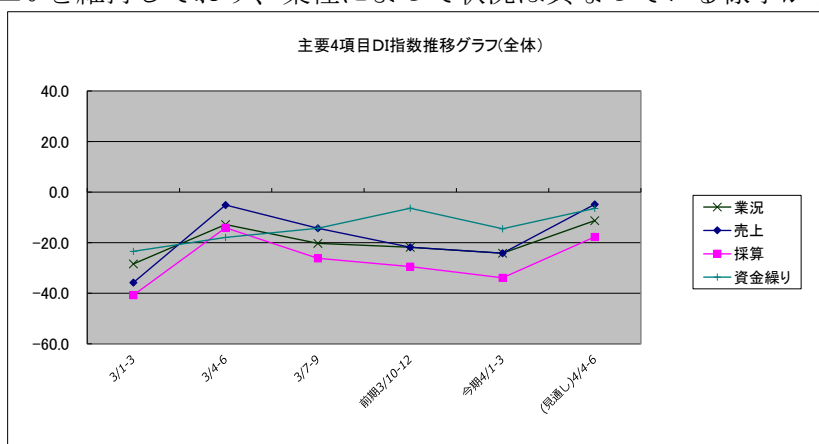
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲30 から今四半期は▲34 へとさらに悪化した。特に業況や売上の悪化が激しい建設業では採算DIも▲40 から▲57 へとさらに悪化した。また、製造業でも▲37 から▲50 へ、サービス業でも▲26 から▲35 へとマイナス幅が拡大した。一方で、小売業では▲18 から▲16 へ、卸売業でも▲40 から▲38 へと下げ止まりの状況となっている。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として悪化し、特にサービス業、建設業、製造業で厳しい

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲6 から▲15 へと悪化した。特にサービス業で▲9 から▲25 へ、建設業でも▲20 から▲29 へ、製造業でも▲12 から▲25 へ、小売業でも+9 から±0 へと悪化した。一方で、卸売業では▲10 から±0 へと改善している。売上の減少や採算の悪化が進む中、コロナ融資の返済の負担が加わり、手元資金が逼迫してきている状況がうかがえる。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足感が強まり、特に建設業、小売業で顕著

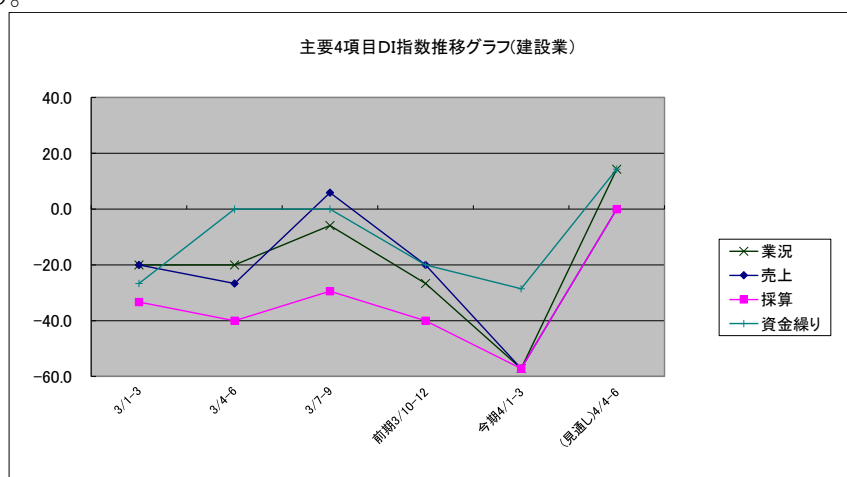
「前年同期比でみた従業員DI(全体）」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+12 から今期は+16 へと人手不足感が若干強まっている。特に小売業が+9 から+21 へ、サービス業も±0 から+10 へ、また、前期には一旦緩和した建設業も+40 から+43 へと人手不足感が再び高まってきているとみられる。製造業では今期も前期同様+13 を維持している。一方で、卸売業は±0 を維持しており、業種によって状況は異なっている様子がうかがえる。



建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲27 から今四半期は▲57 へと大幅悪化している。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲20 から今四半期は▲57 へと大幅に悪化し、「採算」についても▲40 から▲57 へと悪化している。コロナ禍での業界全体の低迷による売上減少に加えて、石油価格の高騰や材料価格の上昇と入手難、あるいは人手不足による作業の進捗不良など、様々なコストアップや業務効率の低下が業況悪化に影響している様子がうかがえる。「資金繰り」についても、前期の▲20 から今期は▲29 へとさらに悪化しており、売上減少に加えてコロナ融資の据え置き期間経過後の返済開始による負担増加などで困難な状況に陥っていることも想定される。

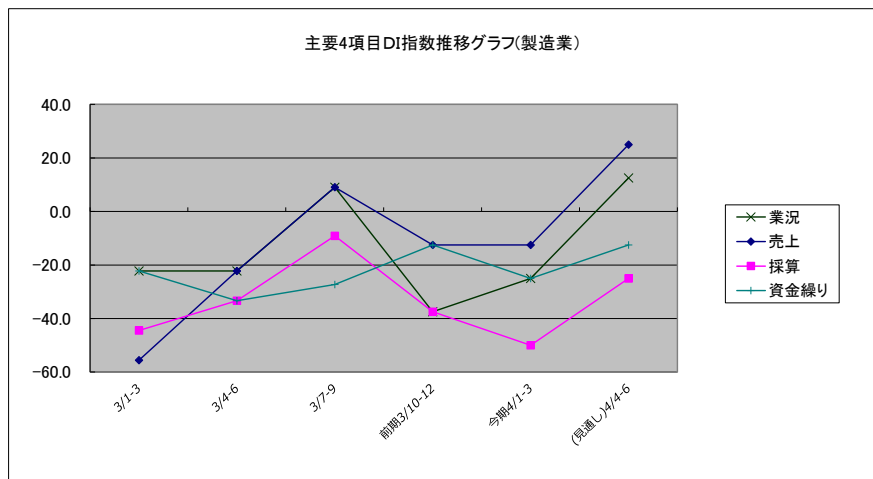
「従業員」は前四半期の+40 から今四半期は+43 となり、人手不足感は再び高まる傾向を示している。



製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲38 から今四半期は▲25 へと改善し、マイナス幅が縮小した。個別指標をみると、「売上」は前期と同様に▲13 を維持したが、一転してマイナス 22 ポイントの大幅悪化となった。「採算」については▲38 から▲50 へとさらに悪化した。売上の改善が進まない中、原料の高騰を販売価格に転嫁できないことや原材料の入手難による部品調達の遅延などで採算が悪化してきている状況がうかがえる。「資金繰り」についても▲13 から▲25 へと悪化している。

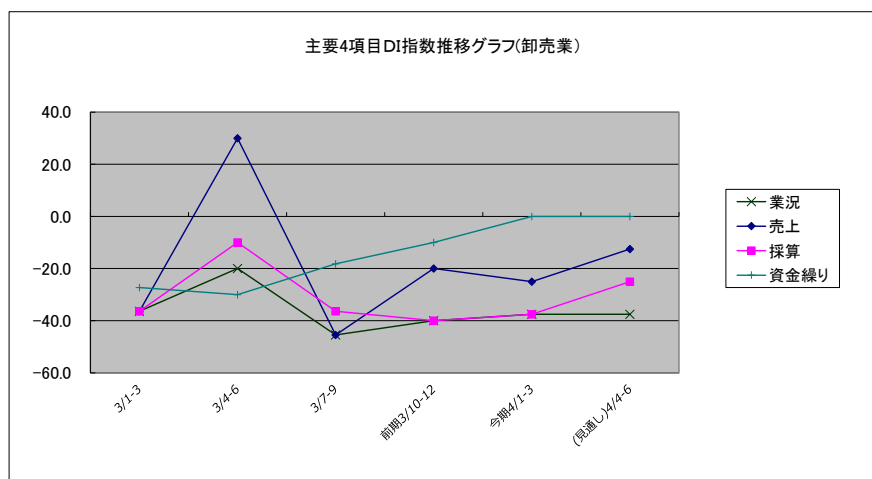
「従業員」については、前四半期の+13 から今四半期も変わらず、引き続き人手不足感が高まった状態が継続しているとみられる。



卸売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期▲40から今四半期は▲38へと足踏み状態となっている。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲20から今四半期は▲25となり、再び悪化した。「採算」については、前四半期の▲40から▲38へ小幅改善しているものの、依然厳しい状況が続いているとみられる。「資金繰り」については、▲10から±0へと改善しており、長期借入や短期借入による資金調達が進んだことも影響を与えているとみられる。

「従業員」は前四半期の±0から今四半期も変わらず、人手不足は解消している状況が見取れる。



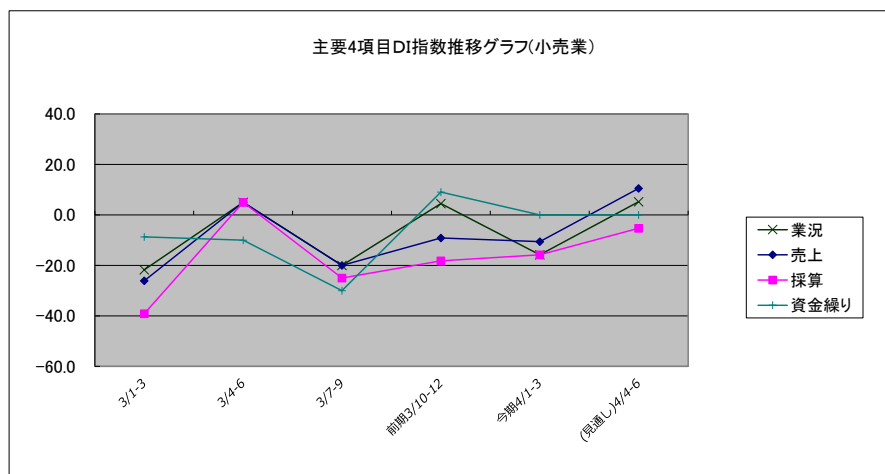
小売業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の+5から今四半期は▲16へと大幅に悪化し、再びマイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」は▲9から▲11へと小幅悪化した。「採算」については▲18から▲16へと足踏み状態となっている。

コロナ禍やウクライナ情勢を背景とした顧客の消費心理の冷え込みから、「生活防衛に主眼を置いた消費行動の変化に対応した商品の開発や品揃えに知恵を絞ったり、ネット販売を強化したりして、なんとか事業を継続する道をさぐっている」という現場の声がある一方で、困難な状況からなかなか抜け出せない状況を訴える声も聞こえてくる。

「資金繰り」は前四半期の+9から今四半期は±0へと悪化しており、売上の悪化が資金繰りに悪影響を与えている状況もうかがえる。

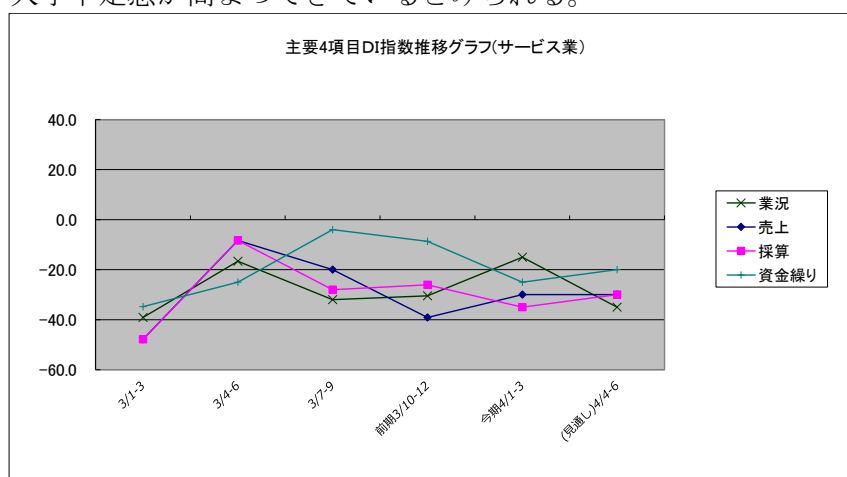
「従業員」は前四半期の+9から今四半期は+21と大きく変化し、人手不足感が高まっているとみられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲30 から今四半期は▲15 へと改善している。個別指標をみると、「売上」は▲39 から▲30 へと改善しているものの、「採算」も▲26 から▲35 へ、また、「資金繰り」も▲9 から▲25 へと悪化しており、エネルギー価格や材料仕入価格上昇や、コロナ禍による対面での事業機会の減少など、依然として厳しい状況が続いている状況がうかがえる。

「従業員」は前四半期の±0 から今四半期は+10 となり、売上の改善に伴って、仕事量が増加した分、人手不足感が高まってきているとみられる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲24 から来四半期は▲11 へと改善するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲24 から▲5 へ改善し、「採算」についても▲34 から▲18 へと改善するとみている。「従業員」については+16 から+15 へと、人手不足の改善は期待できない。滋賀県全体の有効求人倍率は2020年4月以降、1年10ヵ月ぶりに1倍を超えたものの、求人側と求職側のミスマッチは残っており、引き続き注意が必要である。

業種別の「業況」DIでは、今期に大幅悪化した建設業は今四半期の▲57 から来四半期は+14 へと71ポイント改善している(今回建設業の回収率37%と低いことが大きな変動値に影響している可能性に留意が必要)。製造業も▲25 から+13 へ、小売業も同様に▲16 から+5 へ改善すると見ている。業況改善に伴い「売上」や「採算」、「採算の水準」も同様に改善すると見ている。一方で、サービス業は「業況」DIが▲15 から▲35 へ悪化するとみている。

コロナ禍も、ようやく第6波が収束の様子を見せ、規制が緩和されるのに伴って業況の改善が期待される中、業況改善の動きもうかがえる。一方で、新たな変異株での第7波の拡大懸念や、ウクライナ情勢の影響により、原油価格や原材料の国際価格の上昇や円安による輸入品の価格高騰、世界的な輸送体制の混乱による経済の停滞を懸念する予測もあり、現場

からは今後の事業運営に不安の声も出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は18%で、3ヵ月前の24%から6ポイント低下しており、設備投資に対する意欲はさらに低下する結果となった。業種別では、卸売業が50%、製造業が25%、小売業が16%、サービス業が10%、建設業が0%となっており、全体としては設備投資に対して、より慎重な姿勢を取る傾向がうかがえる。投資内容の割合は、「設備更新」が36%で最も多く、コロナ禍による業況先行きが不透明な中でも、老朽化設備の入れ替えは必要と判断していると思われる。「合理化・省力化」については3ヵ月前の26%と同様に今期は27%となり、これらの前向きな設備投資への意欲は維持されている様子も見て取れる。「生産力増強」については、3ヵ月前の11%が今期は9%へと足踏み状態で、全体的な需要低迷が当分野の低い設備投資意欲に影響しているとみられる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が73%で、「景気により見直す」が9%となり、良きにつけ悪しきにつけ景気の先行きに安定した見通しを持っている姿勢もうかがえる。

MBA・中小企業診断士 松島 明男

（今の経済情勢に対する意見） 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・慢性的な不安心理にロシア情勢が加わったので消費はより保守的なニーズが強くなると思います。定番商品をより磨いて時代のニーズとマッチするようにしたいと思います。(小売業)
- ・コロナ状況の中、長い時間を家庭で消費する生活になれば、お客に物を買う意思が無く、老人が生活防衛に追われていて商戦は細やかなスキマ産業に徹するしかないのでは。我社は物のネット販売で何とか生き伸ばせられているのが現状 (小売業)
- ・支払時、値引きしてくれる業者がいる (サービス業)
- ・企業倒産が歴史的な低水準となっているが、これは政府や金融機関が約55兆円の融資で資金繰りをつないだ結果だと思う。オミクロン株が流行すれば倒産を抑えこむはずみが生じ、ゼロゼロ融資の返済の本格化で息切れしてくる企業もあるだろう。(サービス業)
- ・オミクロン株による関係者の面会の抑制、新規の契約、成約が成立してこない。大地震による運輸業の物流停滞に影響を受けている。(サービス業)
- ・石油価格の上昇がコスト幅を上げている。材料費の上昇も大きい。(建設業)
- ・世界がコロナウィルスで困っている中、ロシアが世界を苦しめていることに、ことばにならない位、悲しい思いです。(建設業)

以 上

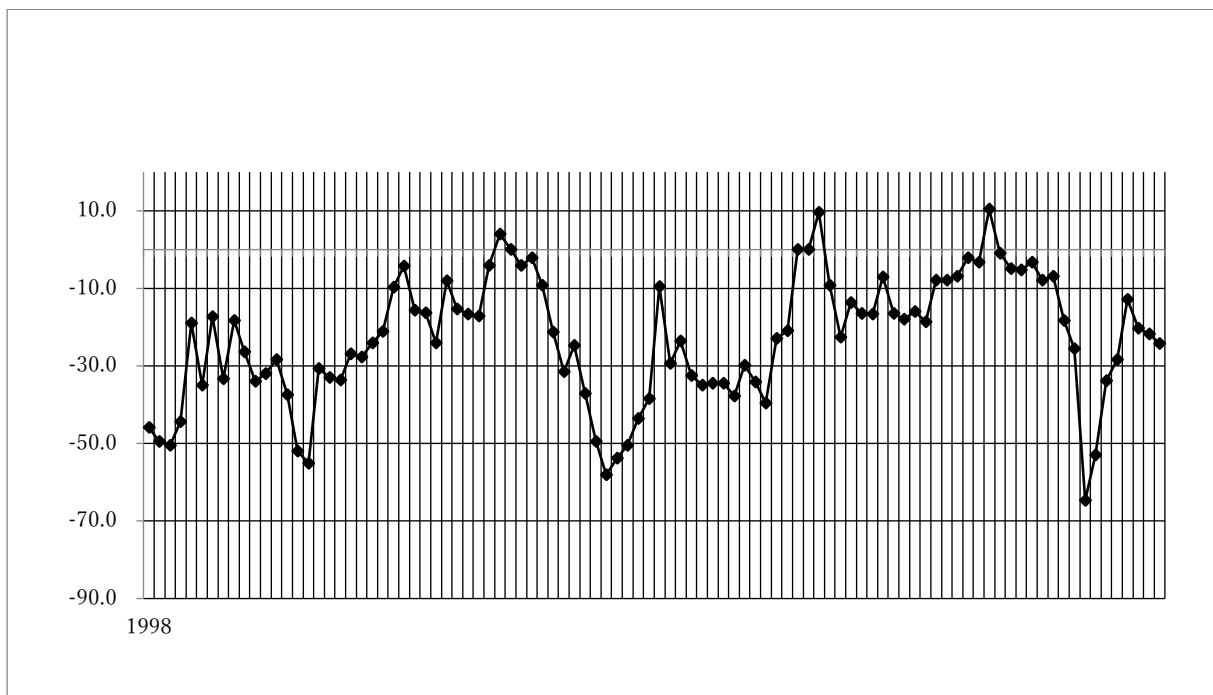
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲24.2	▲11.3	▲24.2	▲4.8	▲33.9	▲17.7
建 設 業	▲57.1	14.3	▲57.1	0.0	▲57.1	0.0
製 造 業	▲25.0	12.5	▲12.5	25.0	▲50.0	▲25.0
卸 売 業	▲37.5	▲37.5	▲25.0	▲12.5	▲37.5	▲25.0
小 売 業	▲15.8	5.3	▲10.5	10.5	▲15.8	▲5.3
サービ ス業	▲15.0	▲35.0	▲30.0	▲30.0	▲35.0	▲30.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	1.6	9.7	▲25.8	▲25.8	16.1	14.5
建 設 業	▲14.3	28.6	▲42.9	▲28.6	42.9	42.9
製 造 業	0.0	0.0	▲25.0	▲25.0	12.5	12.5
卸 売 業	0.0	12.5	▲37.5	▲25.0	0.0	▲12.5
小 売 業	▲10.5	0.0	▲5.3	0.0	21.1	21.1
サービ ス業	20.0	15.0	▲35.0	▲50.0	10.0	10.0
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲14.5	▲6.5	1.6	0.0	3.2	3.2
建設業	▲28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3
製造業	▲25.0	▲12.5	▲12.5	▲12.5	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5
小売業	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3
サービス業	▲25.0	▲20.0	▲5.0	▲10.0	▲5.0	▲5.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>